

二ひきの蛙

新美南吉

青空文庫

緑の蛙かえると黄色の蛙かえるが、はたけのまんなかでばったりゆきあいしました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」
と緑の蛙かえるがいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」
と黄色の蛙かえるがいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起おこりません。二ひきの蛙かえるはどうとうけんかをはじめました。

緑の蛙かえるは黄色の蛙かえるの上にとびかかっていきました。この蛙かえるはとびかかるのが得意とくいでありました。

黄色の蛙はあとあしで砂をけとばしましたので、あいてはたびたび目玉から砂をはらわねばなりませんでした。

するとそのとき、寒い風がふいてきました。

二ひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。蛙たちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」

といって、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色の蛙ももぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、び

ゆうびゆうと北風がふいたり、霜柱が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中にねむっていた蛙かえるたちは、せなかの上の土があたたかくなってきたのでわかりました。

さいしよに、緑の蛙かえるが目をさしました。土の上に出てみました。まだほかの蛙かえるは出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」

と土の中にむかってよびました。

すると、黄色の蛙かえるが、

「やれやれ、春になったか。」

といって、土から出てきました。

「去きよ年ねんのけんか、わすれたか。」

と緑の蛙かえるがいました。

「待て待て。からだの土をあらいおとしてからにしようぜ。」
と黄色の蛙かえるがいました。

二ひきの蛙かえるは、からだから泥土どろつちをおとすために、池いけのほうに
いきました。

池いけには新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいつ
ぱいにたたえられてありました。そのなかへ蛙かえるたちは、とぶんと
ぶんととびこみました。

からだをあらってから緑の蛙かえるが目めをぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」
といました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙かえるがいました。

そこで二ひきの蛙かえるは、

「もうけんかはよそう。」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙かえるでも、きげんがよくなるものであります。

青空文庫情報

底本：「ごんぎつね 新美南吉童話作品集」てのり文庫、大日本図書

1988（昭和63）年7月8日第1刷発行

底本の親本：「校定 新美南吉全集」大日本図書

入力：めいこ

校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

二ひきの蛙

新美南吉

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>